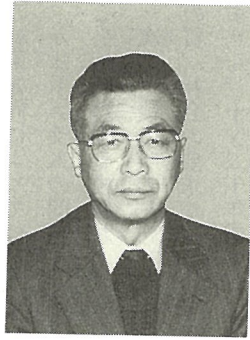


## 当面の課題

秋山 諒



九月より校長の職を汚すことになりました。今まで生徒たちの教育のことばかりで過ごして参りましたものですから学校の経営管理面について一からの勉強を始めなければなりません。管理能力のない私に取りまして身に余る仕事でございますが皆様のお励ましにより務めて参りたいと存じますので宜しくお願い申し上げます。

学校全体を見渡しますと様々な問題が出て参ります。早速取り掛らなければならぬ問題として学費、生徒の急減対策の問題、平成六年度より実施の新カリキュラムの問題、内規の改正の問題、それから一番大きな教育の問題です。校長の交代が九月であった関係で、来年度の学費審議は、手続きのうえで原案作成のための時間

的なゆとりが全くありませんでした。何とか審議はしましたが学費が大阪で一、二を争う高学費です。ですのでこれ以上の値上げは非常に大きな問題があります。今年はずべての面で緊縮予算を立てざる

をえませんでした。それゆえ昭和三十年代初頭に建てた校舎の修理がやって来ておりますが、この大規模修理の予算計上もままなりません。施設拡充費は既に学費のかんりの部分を占めており、これはすでにでき上がっている物件の借金の返済に回って修理費に回すことができません。

次に急減対策ですが高校の場合既に急減期に入っており今から委員会を作るのでは遅きに失しておりますが、どのような方法にしろ私たちの学校のこれからの態度を決めなければなりません。その結果如何によつては助成金に影響が出て参ります。そのための委員会が必要です。

カリキュラムの問題では男子高校にも家庭科の設置が要求されております。中身の科目を決定してそれに対する設備および教員の配置の問題が起ります。

次に生徒の学力を付ける問題です。これは今に始まつた問題ではありませんが時代とともに生徒の質、社会の要求が変わつて参ります。これに應えるためには学校も時代とともに対応せざるをえません。十〜二十年前と同じ内規では時代遅れになります。

また職場の皆さんが働きやすい職場にするためにも二十年以上前に作られた民主的な制度がいろいろな角度から見直しを迫られております。このための委員会も必要になつております。

以上、教学上あるいは管理上の問題が山積しており、到底私ひとりでは処理できる問題ではありません。何よりも大事なものは教職員の和であります。教職員の英知を集めて解決していきたいと思ひますので宜しくお願い致します。

(同志社香里中学校・高等学校長)